



2017年4月11日

スバル研究実験センターにおける蓄電池エネルギーサービスの運用開始について  
～国内初、大容量リチウムイオン蓄電池を活用した瞬時電圧低下対策サービス～

株式会社SUBARU  
東京電力エナジーパートナー株式会社  
日本ファシリティ・ソリューション株式会社

株式会社SUBARU（代表取締役社長 吉永泰之、以下「SUBARU」）と、東京電力エナジーパートナー株式会社（代表取締役社長 小早川智明、以下「東京電力EP」）の100%出資子会社である日本ファシリティ・ソリューション株式会社（代表取締役社長 岡英樹、以下「JFS」）は、4月1日からスバル研究実験センター（栃木県佐野市）において、瞬時電圧低下<sup>※</sup>対策向けリチウムイオン蓄電池システムの運用を開始し、本日、竣工式を行いました。

東京電力EPは本サービスの技術支援を行っており、大容量リチウムイオン蓄電池システムを瞬時電圧低下対策に活用したエネルギーサービスは国内初です。

送電線等への落雷に伴う瞬時電圧低下の発生時には、JFSが同センターに設置した4,800kW相当の大容量リチウムイオン蓄電池システムから放電することにより、車両の性能試験中断等を防ぐことができます。

また、スバル研究実験センターでは、車両の安全性能や走行性能の向上を目指し技術開発の強化を進めており、電力需要の増加が予定されておりますが、本システムを活用しピークカット運転することで、最大電力の上昇を抑えることも可能です。

SUBARUは、これからも個性豊かな魅力ある、確かなクルマづくりを貫き、世界中のお客様へ「安心と愉しさ」を提供していきます。

東京電力EPとJFSは、お客さまの暮らしと企業の成長を強く支えるとともに、社会の多様なニーズにお応えする新しい価値の創造に挑戦し続けてまいります。

以上

※ 瞬時電圧低下

送電線等への落雷により電力系統で不具合が生じた際に、送電する電力の電圧が瞬時に低下する事象。これに伴い、お客さま構内の電圧低下の影響を受けやすい機器が停止する場合があります。

